眼球運動検査　開始条件と実施手順

対象者ID _____　評価日 _____　時刻 _____　検査者 _____

開始前に確認

突然の複視・眼痛は速やかに医師へ。激しい頭痛、瞳孔異常や新しい神経症状を伴う場合、頭部外傷後の複視では救急対応を優先する。

発症時刻・経過／従来の見え方／随伴症状

物品・実施条件

単一の視標（検者の人差し指の先など）、不透明な遮眼子、筆記具、安定した座位または安全に支持された姿勢。眼鏡やプリズムの使用状況を記入する。

体位・頭位 _____　視標と距離 _____

矯正・眼鏡 _____　回答者・回答方法 _____

検査者用　声かけ例と観察手順

① 対面し、顔の正面・眼の高さに視標を一つ提示。「この指先が見えますか。いくつに見えますか」。正面での眼位と回答を２頁の正面欄へ。

② 「顔はこちらに向けたまま、目で指先を追ってください」。頭位を確認し、視標をゆっくり上下左右・斜め４方向へ移す。左右はすべて患者基準。眼球を観察しながら、見失った位置や頭部の動きも記す。

③ 上下左右の終点では視標を止め、眼振を観察。「今、指先は一つですか、二つですか」。二つなら並び方と最も離れる方向を聞く。無理に端まで向かせない。

④ 二重に見える方向で両眼開放の回答を確認し、右眼・左眼を別々に遮る。眼球を押さえず、視標位置を保つ。各条件の回答は３頁へ。

⑤ 苦痛・症状の急変時は中止。できなかった方向と理由を記載。固定の試行数、制限時間、合計点を設定しない。

日本神経学会「神経学的検査チャート作成の手引き」の観察項目を参照した独自の日本語用紙。指示文は編集例。学会の公式様式・原図の転載ではありません。

９方向の所見　両眼開放

対象者ID _____　評価日 _____　時刻 _____　検査者 _____

各行は患者が見た方向。正面は眼位、他は各眼の動きを記入。回答は「一つ・二つ・ぼやける・確認困難」など本人の言葉で。表の行順は記録用。

患者基準	右眼の所見	左眼の所見	本人の回答・像の並び
正面			
右			
左			
上			
下			
右上			
右下			
左上			
左下			

注視保持・眼振／頭部代償・中断の理由

学会の運動制限表記は 0、−1、−2、−3、−4（正常から完全麻痺）。採用時は眼・方向を明示。中間段階の判定が困難なら可動範囲を文章で残す。複視を点数化せず総点は算出しない。

複視の確認と申し送り

対象者ID _____ 評価日 _____ 時刻 _____ 検査者 _____

像が二つになる条件をそろえる

患者基準の注視方向 _____ 視標・距離 _____ 頭位 _____

条件	本人の回答（個数・並び・傾きなど）
両眼を開ける	
右眼を覆う → 左眼で見る	
左眼を覆う → 右眼で見る	

両眼で二つ、左右どちらを覆っても一つなら両眼性複視に合う。片眼だけで見ても二つなら、その開放眼を記す。確認できない条件は理由を書く。

方向による違い・再確認した条件

像の間隔が最大の方向、正面に戻した後の回答、検査中に変えた条件。

生活で困る場面・共有した内容

課題・距離・姿勢／中止した活動／連絡先・時刻／次の確認事項。

STROKE LAB 編集用紙　2026年11月。肉眼による観察と問診用。偏位角や両眼単一視野の測定には別の検査が必要。
手順出典：日本神経学会　神経学的検査チャート作成の手引き（脳神経）
緊急性：NHS　Double vision